

横浜市栄区セーフコミュニティ分野別分科会
児童虐待予防対策分科会

座長 宮崎 良子



児童虐待予防対策分科会名簿

No.	構成	所属	名前
1	関連団体	栄区主任児童委員	宮崎 良子
2	関連団体	栄区主任児童委員	北野 優子
3	関連団体	栄区地域子育て支援拠点「にこりんく」	五十嵐 京子
4	関連団体	栄区地域子育て支援拠点「にこりんく」	古川 真歩
5	関連団体	栄区社会福祉協議会	岩田 周子
6	事務局	栄区こども家庭支援課 課長	金子 強
7	事務局	栄区こども家庭支援課 こども家庭支援担当係長	角谷 小百合
8	事務局	栄区こども家庭支援課 保健師	佐藤 利栄
9	事務局	栄区こども家庭支援課 保健師	湯浅 弘美
10	事務局	栄区こども家庭支援課 社会福祉職	鯉淵 愛

表1 児童虐待予防対策分科会名簿



子育てを取り巻く現状①

表2 横浜市の出生数推移

	2011	2012	2013	2014	2015
栄区	1,008	1,001	957	874	864
横浜市	30,733	30,959	30,181	30,149	30,022

出典：第95回 横浜市統計書

表3 参考：合計特殊出生率

	2011	2012	2013
栄区	1.30	1.36	1.35
横浜市	1.28	1.31	1.31

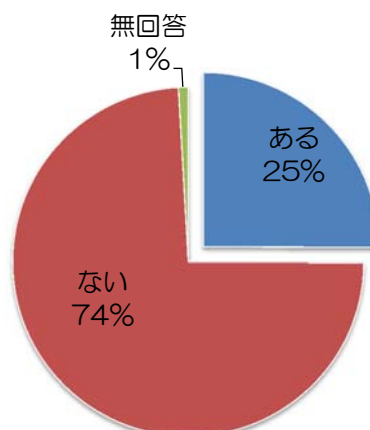
出典：横浜市健康福祉局



子育てを取り巻く現状②

□ 子どもの世話をした経験

子どもが生まれる前に赤ちゃんの世話をしたことがない人が約75%
⇒妊娠中から産後のイメージを持ち、産後の家事・育児の準備ができるような支援が必要

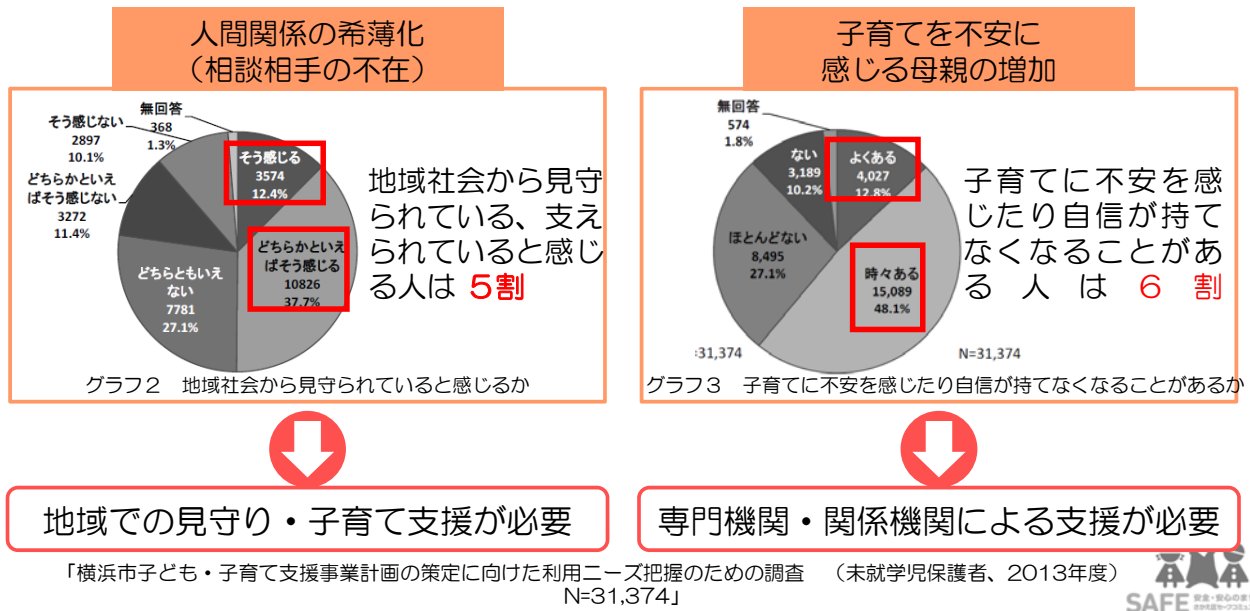


グラフ1 子どもの世話をした経験の有無

出典：「横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査（未就学児保護者・2013年度）N=31,374」



子育てを取り巻く現状③



横浜市及び栄区の児童虐待相談対応状況

表4 区役所における児童虐待対応件数

…児童虐待（疑いを含む）に係る通告・相談に対し、調査等の対応をした件数

	2011	2012	2013	2014	2015	2016
栄区	18	26	12	30	23	48
横浜市	605	752	868	1,016	1,578	2,131

出典：横浜市子ども青少年局

表5 要保護児童数

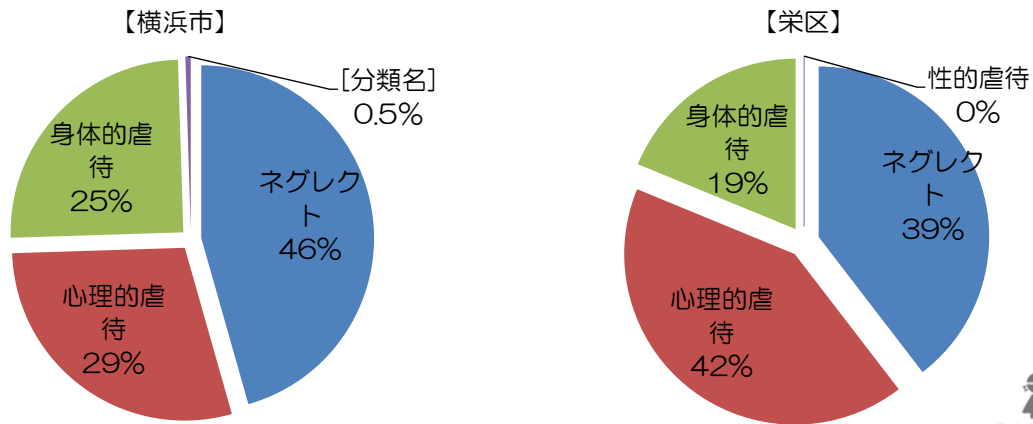
…保護者のいない児童又は保護者に監護させることが不相当であると認められた児童（虐待を受けている児童。保護者や家族状況の変化等により、虐待に発展する可能性が強く危惧されている児童。）

	2011	2012	2013	2014	2015	2016
栄区	104	95	93	124	95	96
横浜市	2,268	2,693	3,190	3,945	3,860	4,222

出典：横浜市子ども青少年局

横浜市及び栄区の虐待相談種別割合

- 虐待種別はネグレクトが横浜市全体で46%を占めている。栄区では39%で、心理的虐待の次に多くなっている。
⇒適切な育児手技等の助言や周囲の子育てサポートが必要

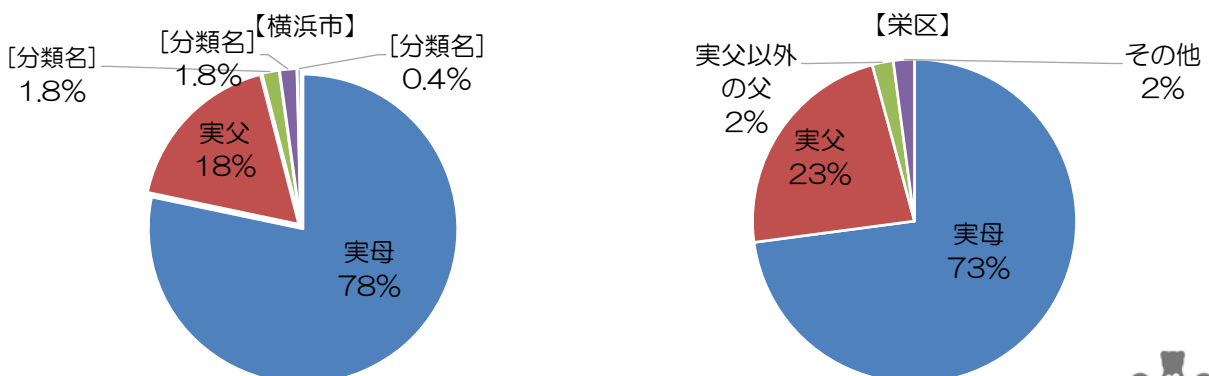


グラフ4 横浜市及び栄区の虐待相談種別割合
(出典：横浜市子ども青少年局 2016年度 N=2,131)



横浜市及び栄区の虐待者別割合

- 虐待者は横浜市全体で実母が最も多く7割を超えている。次いで、実父が18%となっている。栄区でも実母が7割を占めている。
⇒子育て中の親、特に母親への早期のアプローチが必要

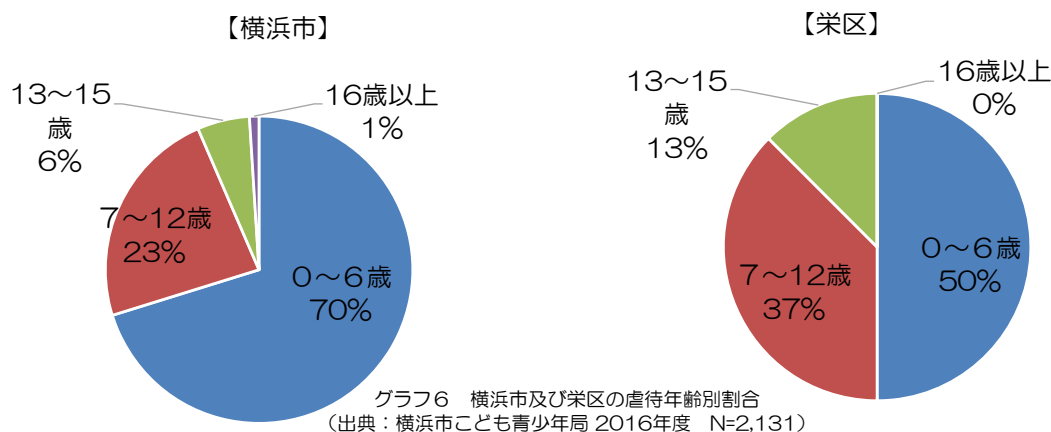


グラフ5 横浜市及び栄区の虐待者別割合
(出典：横浜市子ども青少年局 2016年度 N=2,131)



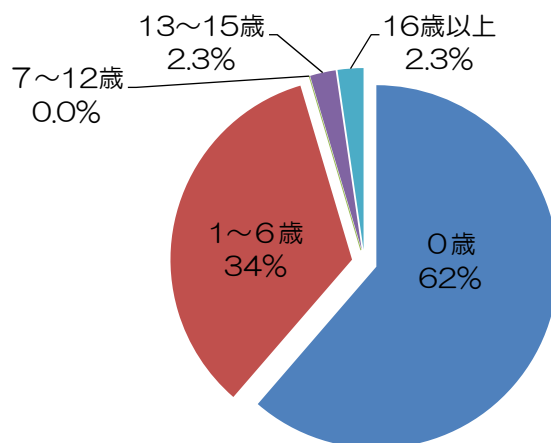
横浜市及び栄区の虐待年齢別割合

- 小学校入学前の子どもの合計は70%となっており、最も高い割合を占めている。栄区では区役所対応分だけをみると小学校入学前の子どもの合計が約半数となっている
⇒乳幼児をもつ親に対する子育て支援が必要



全国の虐待死亡事例の状況

- 厚生労働省のデータによると、心中以外の虐待死の子どもの年齢では、0歳児が61.4%と最も多くなっている
⇒月齢が小さいほど虐待の影響は大きく、死亡事例になりやすい
⇒妊娠期、出産後の早い段階からの専門的な虐待予防が必要

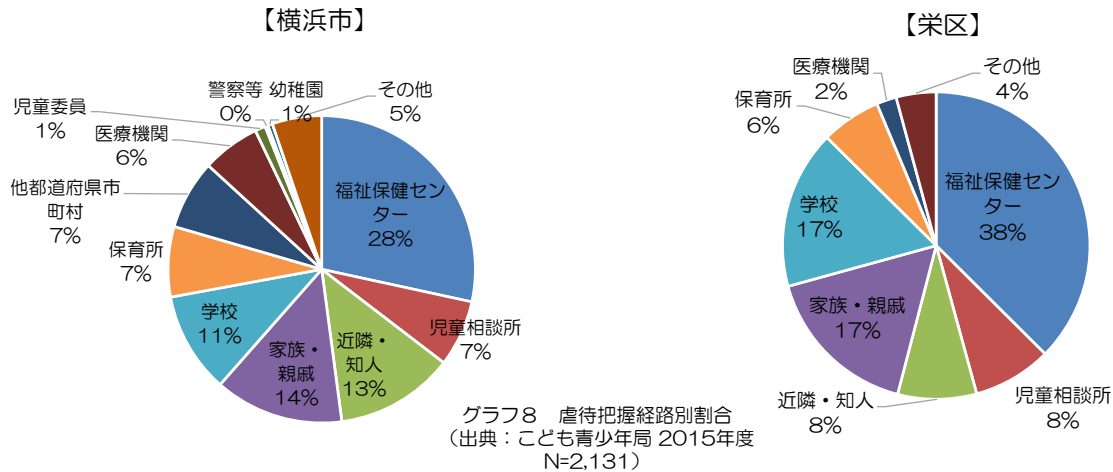


グラフ7 全国の虐待死亡事例の状況
(出典：社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会「子ども虐待による死亡事件等の検証決壊等について(第12次報告)」より N=44)



横浜市及び栄区の虐待把握経路別割合

- 福祉保健センター内の業務から把握したものの割合が高くなっている。その他は児童相談所、家族・親戚等の様々な経路から把握している
⇒児童虐待の知識・理解を広める地域へのアプローチを行い、支援が必要な子どもや家庭を早期に把握できる地域づくりが必要



分科会設置の背景①

- 子育てを取り巻く現状から・・・
 - 地域のつながりの希薄化による育児の孤立化
 - 育児不安を持つ親の増加
 - 核家族化や出産年齢の高齢化に伴う、支援者がいない家庭の増大
 - 自分の子どもを育てる前に赤ちゃんと接する機会の減少



地域全体で子育て世帯を見守る地域づくり
次世代を担う子どもたちの育成



分科会設置の背景②

□ 児童虐待の現状から・・・

- 子育て中の親、特に母親への早期の支援
- 乳幼児をもつ親に対する子育て支援
- 妊娠期・出産後の早い段階からの虐待予防
- 児童虐待の知識・理解を広める地域へのアプローチ
- 地域による見守りと専門職による支援による虐待の早期発見・支援



身近な地域での子育て支援（ポピュレーションアプローチ）

リスクを抱える家庭に対する早期からの専門的支援（ハイリスクアプローチ）



13

分科会の構成

□ より具体的な取組についての話し合いと実践を行うためには…

地域と一体となった児童虐待防止への取組が必要

- ➡ そこで、
セーフコミュニティの虐待防止の取組の1つとして設置された
「さかえっ子の笑顔ひろげ隊」事務局を分科会委員と位置づけた。

四者の協働で
進めています！



図1 さかえっ子の笑顔ひろげ隊

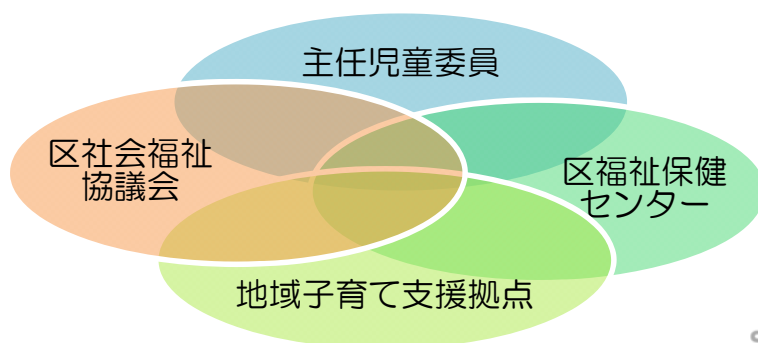


図2 分科会の構成



14

児童虐待予防のための課題と対策

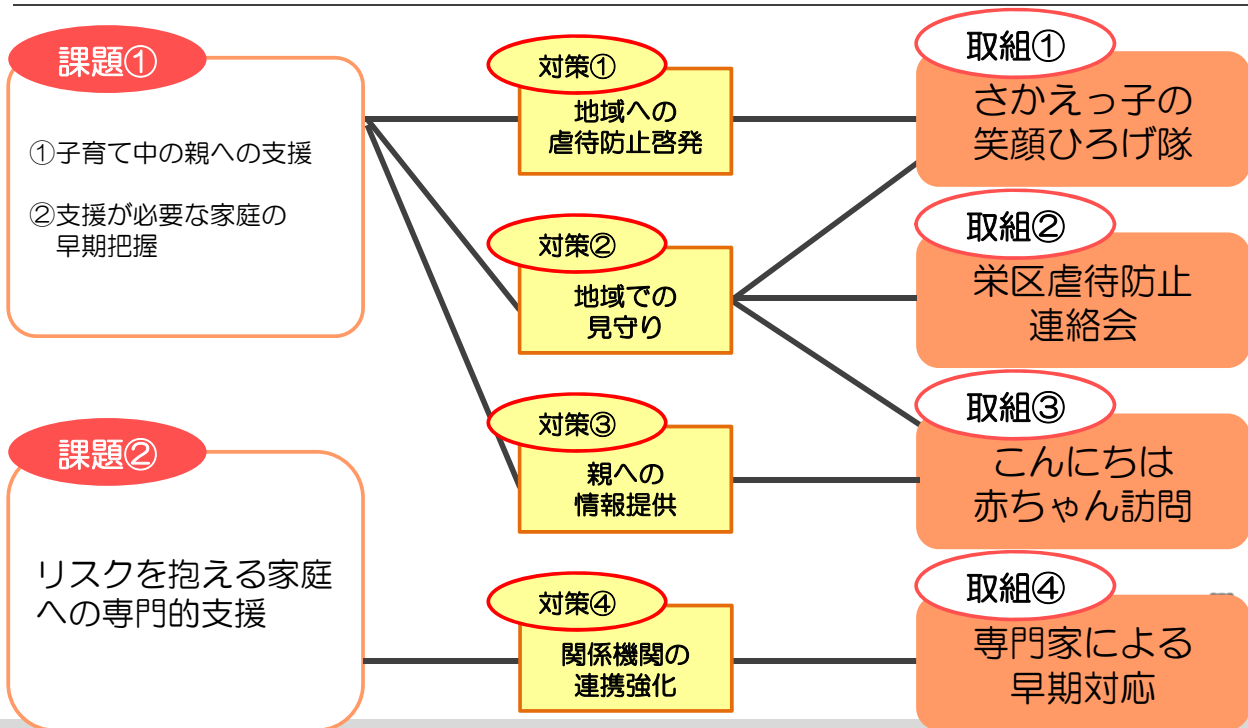


図3 課題と対策

認証取得後からの重点取組の変遷

- 2014年の重点取組の追加時に、子育て応援講座をより身近な地域に出向いての見守りに変更。2016年の指標の見直し時に、専門機関と連携した児童虐待の取組や子育てに課題を抱えやすい家庭への早期支援のため、栄区虐待防止連絡会及び専門家による早期対応の取組を追加した

認証取得時	重点取組の追加 (2014年)	指標の見直し (2016年)
子育て応援講座の開催 (さかえっ子の笑顔ひろげ隊)	身近な地域に出向いての 見守り (さかえっ子の笑顔ひろげ隊)	身近な地域に出向いての 見守り (さかえっ子の笑顔ひろげ隊)
こんにちは赤ちゃん訪問	こんにちは赤ちゃん訪問	こんにちは赤ちゃん訪問
		栄区虐待防止連絡会
		専門家による早期対応

図4 認証取得後からの重点取組の変遷

取組① さかえっ子の笑顔ひろげ隊

さかえっ子の笑顔ひろげ隊は、主任児童委員会、地域子育て拠点、区社会協議会、区役所などの集まりです。

子育て世帯を温かく見守る地域づくりを目指して①地域における児童虐待防止の啓発や見守りの啓発②子育ての相談先の周知③次世代（小中学生）が赤ちゃんと接する体験の場づくり④養育者に対する地域とのつながりをもつ大切さの周知を行っています。

児童虐待
防止の啓発

子育て世帯
の見守り

世代間交流
イベント

乳幼児
ふれあい
体験

孫育て
講座



図5 乳幼児ふれあい体験①



図6 乳幼児ふれあい体験②



図7 リーフレット等



取組① さかえっ子の笑顔ひろげ隊

図8 取組①の評価方法

Step 1

地域が見守りの大切さを理解する

地域での様々な子育て支援の場での啓発活動の開催数、参加者数を計測

Step 2

地域が自主的に見守り等の活動を行っている

見守り活動等を行っている地域の数を計測

Step 3

子育ての負担感やストレスの軽減

児童虐待対応件数、要保護児童数により計測



取組① プログラムの評価（ステップ1）

□ 様々な取組により、年々確実に啓発活動の輪が広がっている

※ 2014年度までは子育て応援講座を開催して子育てに対する啓発活動を行ってきたが、啓発活動をより身近なものにするため、2015年度から身近な地域に出向いての啓発活動に変更

表6 取組① プログラムの評価（ステップ1）

		2012	2013	2014	2015	2016
①子育て応援講座 （～2014※）	開催数	3回	1回	1回	—	—
	受講者数	224人	262人	307人	—	—
	内容の理解度	92%	97%	93%	—	—
②啓発活動対象人数（～2014※）		約2,000人	約3,000人	約4,000人	—	—
③身近な地域に出向いての 見守りの啓発人数 （さかえっ子の笑顔ひろげ隊の紹介、 児童虐待防止啓発リーフレット、 オレンジリボン等配布）		—	850人	750人	1,346人	1,703人

SAFE COMMUNITY
児童・親心のまちづくり
2008年4月～2016年3月実施

取組① プログラムの評価（ステップ2）

□ 身近な地域での子育ての見守り活動や各地域独自の取組は、啓発活動の実施によって今後増加していくことが見込まれる

□ 見守り活動の場：地区での子育てサロン、ひろば等

表7 取組① プログラムの評価（ステップ2）

	2012	2013	2014	2015	2016
身近な地域で子育ての見守り活動ができる場所（2015～※）	—	—	—	11会場	18会場

SAFE COMMUNITY
児童・親心のまちづくり
2008年4月～2016年3月実施

取組① プログラムの評価（ステップ3）

- 児童虐待の相談件数の増加に伴い対応件数は増加傾向にある。要保護児童数は、ほぼ横ばいの傾向となっている

これは、区役所が通告受理機関として区民や関係機関に周知されたことや、啓発活動により児童虐待への関心が高まり、虐待が疑われた早期の段階で相談・通告が入っているためと考えられる。今後も支援が必要な家庭を早期に把握し、対応していく必要がある

表8 取組① プログラムの評価（ステップ3）

	2012	2013	2014	2015	2016
児童虐待対応件数	26件	12件	30件	23件	48件
要保護児童数	95人	93人	124人	95人	96人

出典：横浜市こども青少年局 2016年度



取組② 栄区虐待防止連絡会

児童相談所、警察、医療機関、地域の役員の代表の方々との連絡会実施
さかえっ子の笑顔ひろげ隊（児童虐待予防対策分科会）メンバーも参加し、ひろげ隊の活動の周知、連絡会で抽出された現状や課題を活動に反映させている。



取組② 栄区虐待防止連絡会

より身近な地域で関係機関が顔の見える関係づくりを行い、虐待防止に理解を深め、地域での見守り・子育て支援などに連携して取り組むため、2015年度から地区別虐待防止連絡会を開催しています。

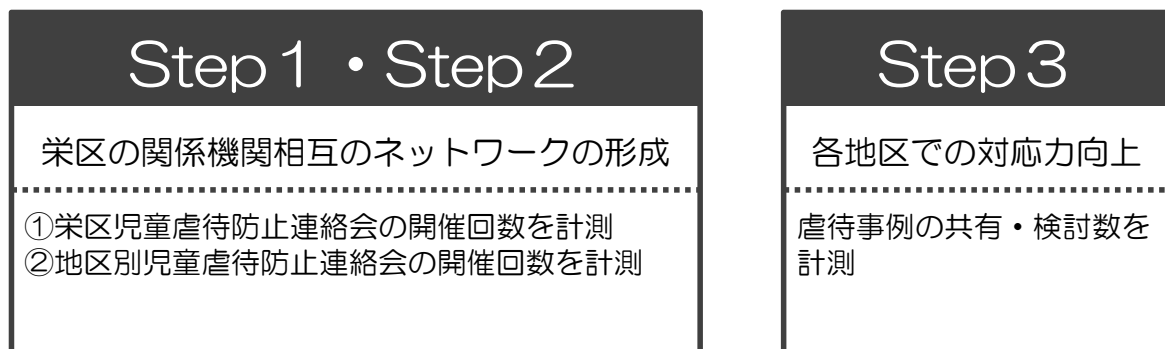
2015年度 小菅ヶ谷地区、豊田地区
2016年度 笠間地区

- 主な機関・団体名
 - ・民生委員児童委員、主任児童委員、地域ケアプラザ、子育て支援関係者
 - 自治会・町内会関係者、児童相談所、学校関係者、幼稚園・保育園関係者、
- 主な内容
 - ・情報共有（児童虐待の現状、栄区の子育て支援、地区の子育て支援）
 - ・情報交換 ・事例検討等



取組② 栄区虐待防止連絡会

図10 取組②の評価方法



取組② プログラムの評価（ステップ1・2）

- 栄区児童虐待防止連絡会（2012年に設置）
関係機関のネットワークを継続していくため、毎年年度初めに開催する
- より身近な地域で関係機関が顔の見える関係づくりを行い、虐待防止に理解を深め、地域での見守りに繋げる

表9 取組② プログラムの評価（ステップ1・2）

	2012	2013	2014	2015	2016
①児童虐待防止連絡会 開催回数	3回	3回	2回	1回	1回
②地区別児童虐待防止 連絡会開催回数	—	—	—	2回	1回



取組② プログラムの評価（ステップ3）

- 要保護児童対策協議会の個別ケース検討会議で地域の関係者も参加し、関係者間での情報共有、役割分担、見守りのポイントを共有をするための検討を虐待事例の共有、検討を行う

表10 取組② プログラムの評価（ステップ3）

	2012	2013	2014	2015	2016
地域関係者が参加した 個別ケース検討会議数	—	—	—	6回	7回
個別ケース検討会議開催数	—	—	—	57回	47回



取組③ こんにちは赤ちゃん訪問

民生委員児童委員や主任児童員等が産後1か月から全数の母子を訪問し、さまざまな子育て情報を届けることで、情報提供と併せて早期からの母子への見守りを行い、児童虐待の防止を目指しています。

- 全数の母子訪問を実施
- 訪問員は、主任児童委員、分科会メンバーなど25名の地域住民

訪問員全員が地域の役員

- 信頼を得やすい
- 地域情報にも明るい



図11 民生委員児童委員・主任児童員等の集まり



図12 栄区オリジナルファイル

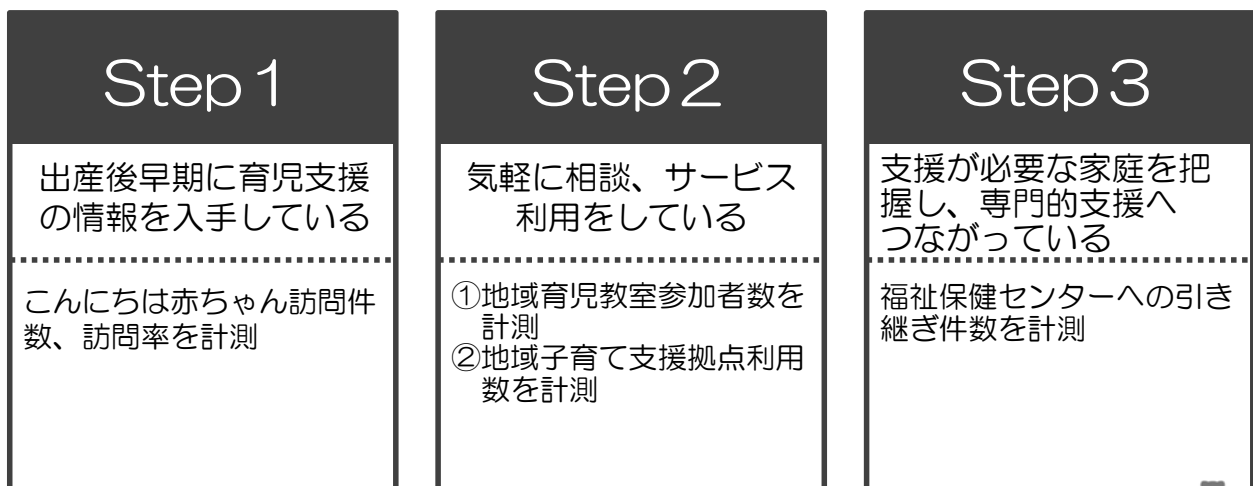
こんにちは赤ちゃん訪問員が、様々な子育て情報をこのファイルに入れてお届けします！



27

取組③ こんにちは赤ちゃん訪問

図13 取組③の評価方法



28

取組③ プログラムの評価（ステップ1）

- こんにちは赤ちゃん訪問の訪問率はほぼ横ばいであるが、母子健康手帳交付時の説明等により認知度を増やし、高い水準で推移している

表11 取組③ プログラムの評価（ステップ1）

	2012	2013	2014	2015	2016
こんにちは赤ちゃん訪問事業の訪問件数、訪問率	814件 81.3%	865件 88.6%	783件 88.4%	776件 87.7%	756件 91.5% (暫定値)



取組③ プログラムの評価（ステップ2）

- 利用者数自体は減少傾向ではあるが、これは年々出生数が減少している影響のためであり、事業の周知により、地域育児教室の参加者や、地域子育て支援拠点の利用者数は概ね順調に推移している

表12 取組③ プログラムの評価（ステップ2）

	2012	2013	2014	2015	2016
①地域育児教室参加者数	2,035組	1,827組	1,649組	1,522組	1,299組
②地域子育て支援拠点延べ利用者数	23,022人	25,113人	24,051人	21,920人	21,448人



取組③ プログラムの評価（ステップ3）

- こんにちは赤ちゃん訪問員が訪問し、把握された専門的な支援が必要と思われる家庭や気になる家庭について、適切に福祉保健センターに引き継がれ、支援につながっている。子育て中の母親が地域と接点をもつ機会となっている

表13 取組③ プログラムの評価（ステップ3）①

	2012	2013	2014	2015	2016
①こんにちは赤ちゃん訪問事業の訪問件数	814件	865件	783件	776件	756件
②こんにちは赤ちゃん訪問員から福祉保健センターへの引き継ぎ件数	31件	32件	13件	3件	35件



取組③ プログラムの評価（ステップ3）

- 児童虐待の相談件数の増加に伴い対応件数は増加傾向にある。要保護児童数は、ほぼ横ばいの傾向となっている

これは、区役所が通告受理機関として区民や関係機関に周知されたことや、啓発活動により児童虐待への関心が高まり、虐待が疑われた早期の段階で相談・通告が入っているためと考えられる。今後も支援が必要な家庭を早期に把握し、対応していく必要がある

表14 取組③ プログラムの評価（ステップ3）②

	2012	2013	2014	2015	2016
児童虐待対応件数	26件	12件	30件	23件	48件
要保護児童数	95人	93人	124人	95人	96人

出典：横浜市子ども青少年局 2016年度



取組④ 専門家による早期対応

母子健康手帳交付時の看護職による面接、出生連絡票を基にした訪問などにより、専門家が子育て世代に早期から情報提供すると同時に、訪問時にEPDSを実施することで、支援の必要な養育者への早期対応・継続支援を実施しています。併せて、児童虐待防止連絡会の地区別開催や、個別ケース検討会議により、専門家と地域が連携してネットワークを構築し、児童虐待を防ぐ仕組みを作っています。

- 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援
- 予防的支援とハイリスク支援

＜具体的な取組＞

- 母子健康手帳交付時には看護職による面接を実施
- 出生連絡票を基にした訪問時のEPDS（エジンバラ式産後うつ評価指標）実施
- EPDS高得点者や育児不安を抱える養育者に対する支援
- 児童虐待に対する早期対応、支援

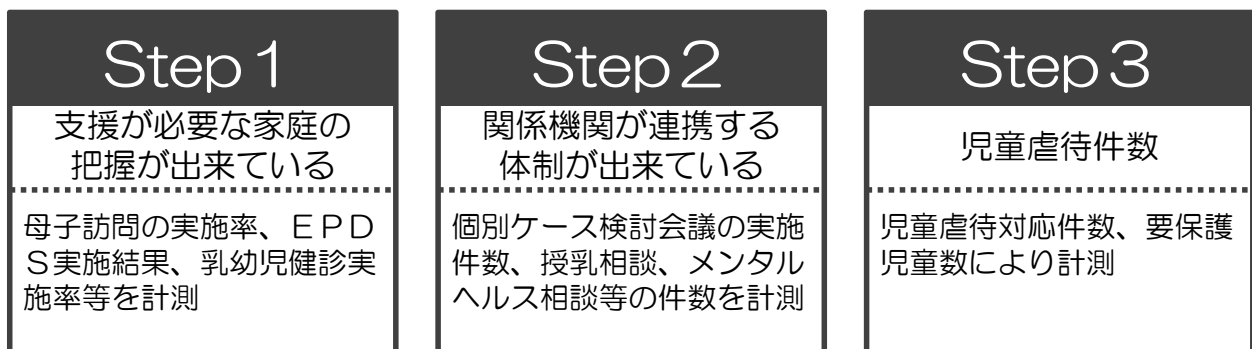
図14 横浜市の母子健康手帳



33

取組④ 専門家による早期対応

図15 取組④の評価方法



34

取組④ プログラムの評価（ステップ1）

□ 母子訪問や乳幼児健診の中で支援が必要な家庭の把握をしている

表15 取組④ プログラムの評価（ステップ1）

	2012	2013	2014	2015	2016
①母子訪問指導員による第1子への訪問実施率	79.1% (385件)	75.2% (352件)	80.3% (338件)	73.1% (331件)	77.3% 暫定値 (350件)
②EPDS実施結果	534件 うち支援の必要な方52人 (9.7%)	481件 うち支援の必要な方52人 (9.7%)	481件 うち支援の必要な方55人 (11.4%)	447件 うち支援の必要な方52人 (11.6%)	374件 うち支援の必要な方45人 (12.1%)
③乳幼児健診受診率	4か月：99.1% 1歳半：97.5% 3歳：96.0%	4か月：95.5% 1歳半：96.6% 3歳：98.1%	4か月：96.6% 1歳半：95.0% 3歳：96.5%	4か月：96.1% 1歳半：94.2% 3歳：94.0%	4か月：98.4% 1歳半：95.2% 3歳：97.1% 暫定値
④未受診者の状況把握率	—	—	100%	100%	100%

35

取組④ プログラムの評価（ステップ2）

□ 関係機関が連携・協力して支援を行うために、ケースの見立て（アセスメント）を共有し、具体的な支援策を検討する個別ケース検討会議を開催している

□ 授乳など育児に不安を持っている養育者に対する相談業務を実施している

表16 取組④ プログラムの評価（ステップ2）

	2012	2013	2014	2015	2016
①個別ケース検討会議実施数	72件	85件	96件	76件	74件
②周産期メンタルヘルス支援事業利用者数 (授乳相談、メンタルヘルス相談、育児スタート応援教室)	656人	630人	623人	405人	452人

36

取組④ プログラムの評価（ステップ3）

- 児童虐待の相談件数の増加に伴い対応件数は増加傾向にある。要保護児童数は、ほぼ横ばいの傾向となっている

これは、区役所が通告受理機関として区民や関係機関に周知されたことや、啓発活動により児童虐待への関心が高まり、虐待が疑われた早期の段階で相談・通告が入っているためと考えられる。今後も支援が必要な家庭を早期に把握し、対応していく必要がある

表17 取組④ プログラムの評価（ステップ3）

	2012	2013	2014	2015	2016
児童虐待対応件数	26件	12件	30件	23件	48件
要保護児童数	95人	93人	124人	95人	96人

出典：横浜市こども青少年局 2016年度



その他のプログラム

- 育児への不安等に関する知識、情報の提供等

表18 その他のプログラムの取組実績

	2012	2013	2014	2015	2016
地域子育て支援拠点「にこりんく」による地域での子育て講座開催数、参加者数	—	7回 315人	7回 224人	8回 224人	16回 492人
SBS（乳児揺さぶられ症候群）予防の講座	—	両親教室 母親学級 地域育児教室 での周知	2013年度 ＋ 父子手帳への 掲載	2014年度 ＋ 子どもの事故 予防リーフ レットへの掲 載（※）	同左
一時預かりサービス利用件数	3,833件	3,550件	3,801件	3,271件	3,584件

セーフコミュニティ活動による気づきや変化

□セーフコミュニティ活動を通じ、虐待予防対策に関する理解が深まるとともに、地域の方の間で世代間交流や子育て支援の必要性が話し合われている。

⇒地域特性に応じた、子育て支援の取組や世代間交流等の取組が行われ始めている。

□要保護児童対策協議会の個別ケース検討会議を積み重ねることにより、検討ケース以外でも関係機関からの相談が増えた。

⇒区役所へ相談がつながりやすくなってきている。（早期発見・早期支援）
特に関係機関からの相談が増えてきている。
引き続き、連携を強化しつつ、身近な地域でも見守りを推進していく。

□地域での見守りが進みつつあるが、養育者がどのように感じているか、十分に把握できていない。

⇒子育て世帯に対するアンケート調査の実施。（現状と見守りの効果把握）



39

今後の方向性

1 広報啓発の強化

- ・児童虐待防止の取組への理解、協力を求めるための啓発活動の充実（さかえっ子の笑顔ひろげ隊の活動）

2 地域子育て支援の推進

- ・地域福祉保健計画との連動した、『地域のか』で子どもと家庭を支える環境づくりの推進

3 関係機関相互の連携強化

- ・要保護児童対策地域協議会を充実し、関係機関の連携強化対策



40

ご清聴ありがとうございました

